

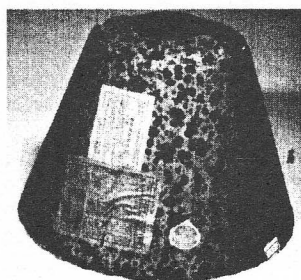
くうしゅう

八王子空襲

たいへいようせんそう

太平洋戦争が終わりごろになると日本の空にまでアメリカ軍の飛行機が侵入してくるようになりました。昭和 20(1945)年8月2日、八王子はアメリカ軍機169機によって約2時間にわたる空襲を受けました。そのために、八王子の市街地のほとんどが、焼け野原になったのです。

この空襲では、市民一人あたり 10 個に相当する約 67 万個の焼夷弾が落とされ、約 450 名もの人々が亡くなり、家が1万4千戸焼け落ちてしまいました。そして、13 日後の8月 15 日、日本は全面降伏して、終戦をむかえました。



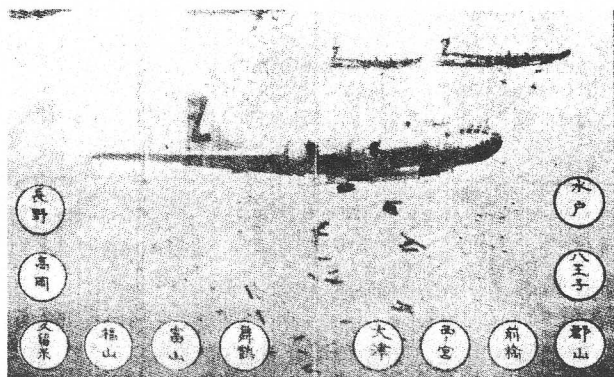
電灯のかさ

敵の飛行機にねらわれないために電球にかぶせて光が外にもれないようにする。

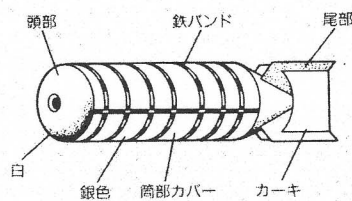


ぼうくうずきん
防空頭巾

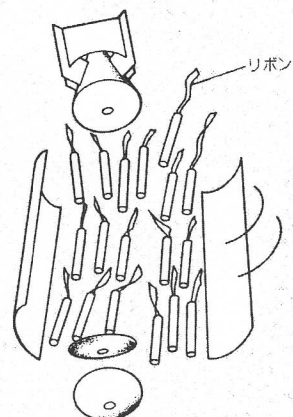
外へ出歩くときに、身を守るためかぶった。



空襲を予告したビラ(伝单)



しゅうそく
M17集束焼夷弾



M50 焼夷弾が 110 本もはいつている。投下されると数秒で帯がとれて 110 発の M50 焼夷弾がばらまかれる。